

質問状

2017年7月25日

代表取締役

御担当者様

〒530-0015
大阪市北区中崎西1-6-36-308
ウータン・森と生活を考える会
代表 西岡 良夫

パーム油発電事業における熱帯林への影響について

拝啓

ウータン・森と生活を考える会は、1988年より日本国内及びボルネオ島（カリマンタン島）のマレーシア・インドネシアにおいて熱帯林保護活動を行ってまいりました。

近年、パーム油生産のためのアブラヤシ農園の急速な拡大は、ボルネオ島やスマトラ島の熱帯林の大規模破壊や森林火災の原因となっており、生物多様性や気候変動に甚大な悪影響を及ぼし、今や地球環境と人類の持続可能性にとって見逃せないリスクとなっております。

つきましては、貴社のパーム油発電事業について質問をさせていただきたく存じます。

御回答は8月7日までに、info@hutangroup.org またはウータン・森と生活を考える会事務所の住所まで郵送にていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

-----記-----

Q1. 貴社は、パーム油発電が環境に非常に良いとお考えと思いますが、パーム油の原材料であるアブラヤシの農園拡大が熱帯林や泥炭湿地の破壊を引き起こしていることをご存じでしょうか。

A. 知っている B. 知らなかった

Q2. 食用油の需要の増大に伴い、アブラヤシ農園だけでなく大豆農園などが拡大し、森林の破壊が問題となっています。食用に使うことができるパーム油を燃料に使用してしまうことにより、さらなる森林破壊が引き起こされる恐れがありますが、どのようにお考えでしょうか。

{

}

(二面に続きます)

